

西濃農林事務所の普及活動状況

平成27年2月24日現在

今月の重点活動

■新規就農者 **西濃地域就農支援会議の開催**

2月5日に西濃地域就農支援会議を開催した。県就農支援センターで研修し、来年度就農を目指す4名の研修生を円滑に就農に導くためのもので、今回は、新規就農者としての認定を受けるために市へ申請した青年等就農計画の説明を4名の研修生から受けた。4名とも国及び県の助成制度の活用を前提にしているため、その効率的な活用について関係者で再確認を行った。

今後も関係機関と役割分担をした中で新規就農者に対する支援を進めていく。



【会議の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー **ブロッコリー出荷実績**

西濃管内の1月下旬までの出荷実績は25,839ケースであり、25年比166%、24年比173%と非常に好調な出荷となっている。2月の低温により、花蕾の花咲もなく品質を良好に保ったまま出荷が続いており、ほぼ全ての農家で2月中に出荷が終了する予定となっている。定植機をメーカーから実演機を借り受ける等の努力により、9月の適期に定植を行うことができたことと、収穫率の高い新品種面積を拡大したことが収量増の要因と思われる。

次年度は更に品種更新を進めるとともに、定植機の増台も進めて出荷量増加を推進していく予定である。

売れる農畜産物づくり

■小麦 **良品質小麦の安定生産**

普及課とJAにしみの営農経済センターは地区ごとに小麦の調査ほ場を設置し、生育状況を調べている。「イワイノダイチ」は海津市と不破郡で作付けされ、生育は昨年よりやや早くほぼ平年並の生育である。「農林61号」は不破郡を除く全域で栽培され、低温のため平年より生育（分けつ）が遅れており、昨年と同様に茎数は少なめとなっている。

「さとのそら」の生育も過去の実証データに比較して遅れている。「さとのそら」は平成29年に「農林61号」からの切替えが計画され、管内で計14カ所、60haの拡大実証ほが設置されている。

調査した生育状況に基づき、普及課とJAにしみのは連携して排水対策、雑草対策、肥培管理について適期作業を指導している。

■春菊 **出荷および品種検討会の開催**

27年産の春菊は台風、病害の発生および栽培品種を急に変更せざるを得なかったことにより、その生産が苦戦している状況である。2月6日の役員会では12月末までの販売実績が報



【小麦ほ場雑草対策調査】

告され、数量は6,972ケース（前年比49%）、金額は2,709万円（前年比51%）と大きく減少していた。

1月の出荷量が回復し前年比97%となっているものの27年産の販売額は大きく落ち込むことが予想される。

生産不安定要因の1つとなっている栽培品種の変更については、2月17日に役員11名により農業技術センターおよび不二種苗農場で行われている品種試験の栽培状況を視察し、今後の品種選定についての検討を行った。

■ 梨 アンケート調査の実施

大垣市内梨生産者が高齢化し、年々梨の栽培面積が減少している中、梨の産地維持を目的に、作業受委託に関する意識調査する目的でアンケート調査をJA関係支店、大垣市と協力して実施した。現在集計を行っており、今後の産地の方向性を検討する上での参考としていく予定である。

多様な担い手の育成・確保

■ 法人化支援 神戸町、安八町、輪之内町における法人化検討

神戸町の西保集落営農、安八町の上村営農組合、輪之内町の上中郷営農組合及び中郷下営農組合において法人化検討会が各自開催されている。農業普及課は税務研修を行うための講師紹介や既法人組織の設立事例の紹介等の支援を行っている。各地区の支援についてJA、役場、農業会議と連携を図りながら法人化支援を行っていく。

また、南今ヶ淵において、集落営農の設立についての第1回検討会が行われた。今後も自治区、農業委員、農事改良組合、役場、JAともに集落の今後について検討する。

■ 全国麦作共励会表彰

■ 蛇池営農組合が全国農業協同組合連合会長賞を受賞

平成26年度全国麦作共励会の表彰式が、2月19日に東京都の麹町会館で開催され、海津市の蛇池営農組合が、集団の部で「全国農業協同組合連合会長賞」を受賞した。



【集落営農検討会の様子】



【表彰式の様子】

戦略的な流通・販売

■ 安八町農産物加工運営委員会 新商品開発研究：出張米粉教室

薬草部会は、1月22日に実施された第2回出張米粉教室にて、ほうれん草入りパウンドケーキについて、つくり方の再確認と容量による出来上がりについて検討した。

食味、コストの点から小さめのサイズで販売することとし、梅まつりバザーまでに商品を完成させることとなった。